

3 中学校

No.	テーマ等	人権教育の視点
(8)	こんなとき、どう言う？ － 自分も相手も大切に － ●教科等／道徳 ●学年／中学校1年～3年	相互理解 人間関係の活性化

1 ねらい

- (1) 性別にかかわらず、自分の個性を大切にし、能力を伸ばす意欲をもつ。
- (2) 自分だけでなく、相手の人権も大切にするためにコミュニケーション能力を身につけ、相手の立場に立って、自分の考えを正しく相手に伝える。

2 指導にあたって

- (1) 「人間関係における3つのタイプの言動」を考えさせる過程で、性別にかかわらず、相手の気持ちを考えながらも、自分の言いたいことをきちんと伝えることの大切さに気づかせることのできる資料である。
- (2) 一人一人が対等にコミュニケーションできることは、それぞれの自尊感情を高めさせるとともに、良好な人間関係を築かせ、男女共同参画社会を形成するために重要であることに気づかせる。そして将来、自己決定を大切にした生き方や、パートナー間のドメスティック・バイオレンス(DV)を防ぐ生き方の基礎となるよう指導する。

3 展開例

学 習 活 動	指導上の留意点
1 今までに友だちに何か頼まれたとき、断りたかったが、うまく断れなかった経験を発表する。	・断り方には、いろいろあることに気づかせる。
2 資料を読んで、話し合う。 (1) 「場面1」のAさんのセリフを書いて発表する。	・「女の子だからあきらめる」という不合理に気づかせる。 ・不合理な考えに負けずに言える力をつけさせる。
(2) 「参考資料」を読み、3つのタイプの言動を知る。	・③のタイプを理想とさせる。 ・自分の書いたAさんのセリフは、①から③のどのタイプか確認させる。
(3) 「場面2」のDさんのセリフを書いて発表する。	・①、②は確認にとどめ、③のタイプについて、多くの生徒に発表させる。 ・男女共に、生活的、精神的、経済的に自立することの大切さに気づかせる。 ・働くことは、お金を稼ぐことだけが目的ではないことに気づかせる。
3 学習の振り返りをする。	・授業の感想を書いて、発表させる。

「こんなとき、どう言う？—自分も相手も大切に—」

1 場面1

Aさん 「私の将来の夢は、医者になることです。それには、大学に進学する必要があります。だから、大学に進学したいです。」

Aさんの親 「お兄ちゃんは大学に行ったけれど、あなたは女の子なんだから、大学に進学しなくていいです。医者になんかならなくてもいいよ。」

- ☐ あなたが将来の夢を大切にしたいAさんなら、こんなときどう言いますか？

2 参考資料:「人間関係における3つのタイプの言動」

- ① 自分の気持ちは大切にするが、相手の気持ちは大切にしない言動
- ② 自分の気持ちは後まわしにして、相手の気持ちを優先した言動
- ③ 自分の気持ちも、相手の気持ちも大切にしたい言動

3 場面2

Dさん 「ただいま。今日、会議が長びいて、少し遅くなっちゃったわ。」

Dさんの夫 「おかえり。Dさんの仕事、やりがいがあって楽しそうだね。でも、女性は家にいて家事と子育てをしっかりとるもんだよ。僕の給料だけでも生活はできるから、Dさんは家にいて働かなくてもいいよ。あー、おなかすいた。ごはんにしてよ。」

- ☐ あなたが働きたいDさんなら、こんなときどう言いますか？「人間関係における3つのタイプ」別に書いてみよう。

- ① 自分の気持ちは大切にするが、相手の気持ちは大切にしない言動

- ② 自分の気持ちは後まわしにして、相手の気持ちを優先した言動

- ③ 自分の気持ちも、相手の気持ちも大切にしたい言動

4 今日の授業の感想・学んだこと

No.	テーマ等	人権教育の視点
(9)	男女の理解 ●教科等／道徳	異性についての正しい理解 差別と人権問題についての学習 ●学年／中学校1年～3年

1 ねらい

性別にこだわらない自分らしい生き方について考え、性別による固定的な役割分担意識や偏見に気づき、解消していこうとする。

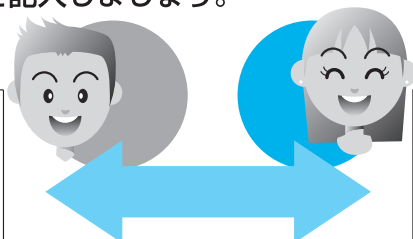
2 指導にあたって

- (1) 生活の大きな部分を占める学校では、生徒は伸び伸びと自己表現をし、生き生きと行動しているように見受けられる。その一方で、生徒は社会や親をはじめとした周囲の大人からの日常的な影響などによって、男性や女性という意識を自然に身につけていると思われる。生徒が学校を卒業してからも、性別による役割分担意識にとらわれることなく、本当に自分らしい生き方とは何かを常に追求し、豊かに生活していけるようにする。
- (2) 中学生の発達段階は、自己の世界にこもり、自分の姿を簡単に他人に見せようとしないうちである。そのような時期であるからこそ、じっくりと自分自身と向き合わせ、あらゆる分野で男女が互いの個性を認め合い、一人一人を大事にする男女共同参画社会に気づかせ、自分らしく生きていくことができるようにさせる。

3 展開例

学 習 活 動	指導上の留意点
1 男女が協力できているか、クラスの様子を発表する。	・日常生活の中で、「男子なんだから」「女子なんだから」と言われたときの気持ちを考える。 ・家庭や地域において、男女の差について言われたことはないか、また言われたときの気持ちも考えさせる。
2 ワークシートをもとに、身の回りの職業や出来事について振り返る。	・ワークシートに記入することで、自分の考えを整理させる。 ・どちらでもよいという判断はあえてしないで、どちらかを選ぶことにより自分自身と向き合わせる。
3 班ごとに話し合う。 ・思い浮かべた理由 ・不都合なことは起こっていないか。 ・これからどうしていけばよいか。	・お互いを尊重することで自分らしさが発揮できることに気づかせる。 ・自分らしく生きることの大切さに気づかせる。
4 本時の感想を書く。	

- ☐ 次のことからについて、あなたは、男女のどちらを思い浮かべますか。
自分の思いに近い枠に○を記入しましょう。



絶 対 男の人	ほとんど 男の人	どちらか といえば 男の人		どちらか といえば 女の人	ほとんど 女の人	絶 対 女の人
			洗濯・洗濯物干し			
			子育て			
			料理・食器洗い			
			生徒会長			
			生徒会書記			
			委員長			
			教室の花の水かえ			
			コンビニエンスストアのレジ係			
			バスの運転士			
			看護師			
			保育士			
			医 師			
			薬剤師			

【これから、どうすればよいのでしょうか。】

No.	テーマ等	人権教育の視点
(10)	女性も男性もみんなイキイキ ー こんな社会をめざしています ー ●教科等／道徳 ●学年／中学校1年～3年	異性についての正しい理解 人権の擁護とその活動についての学習

1 ねらい

男女が社会の対等な構成員として協力し、共に学校や家庭、地域、職場等に参画する大切さに気づく。

2 指導にあたって

- (1) 本資料は、理想的な男女共同参画社会の姿が描かれている。この絵を見て、何が理想的なのかを考えさせ、自分の身の回りの状況や思い込みとの違いに気づかせ、男女共同参画社会の実現への意欲を高める。
- (2) 女性も男性も対等に協力し合うことにより、誰もが生き生きと楽しい生活を送ることができることに気づかせる。

「職業」については、性別によって職業を限定せず、職業選択の幅を広げる意欲を持たせる。また、男女が主と副の関係ではなく対等であり、女性もリーダーとなって働くことがあたりまえの社会を理想として考えさせる。

「家庭・地域生活」では、性別にかかわらず、誰もが自立して家事ができることが大切である。そして、育児や介護についても、性別にかかわらず、男女が協力し合っていくことの大切さに気づかせる。

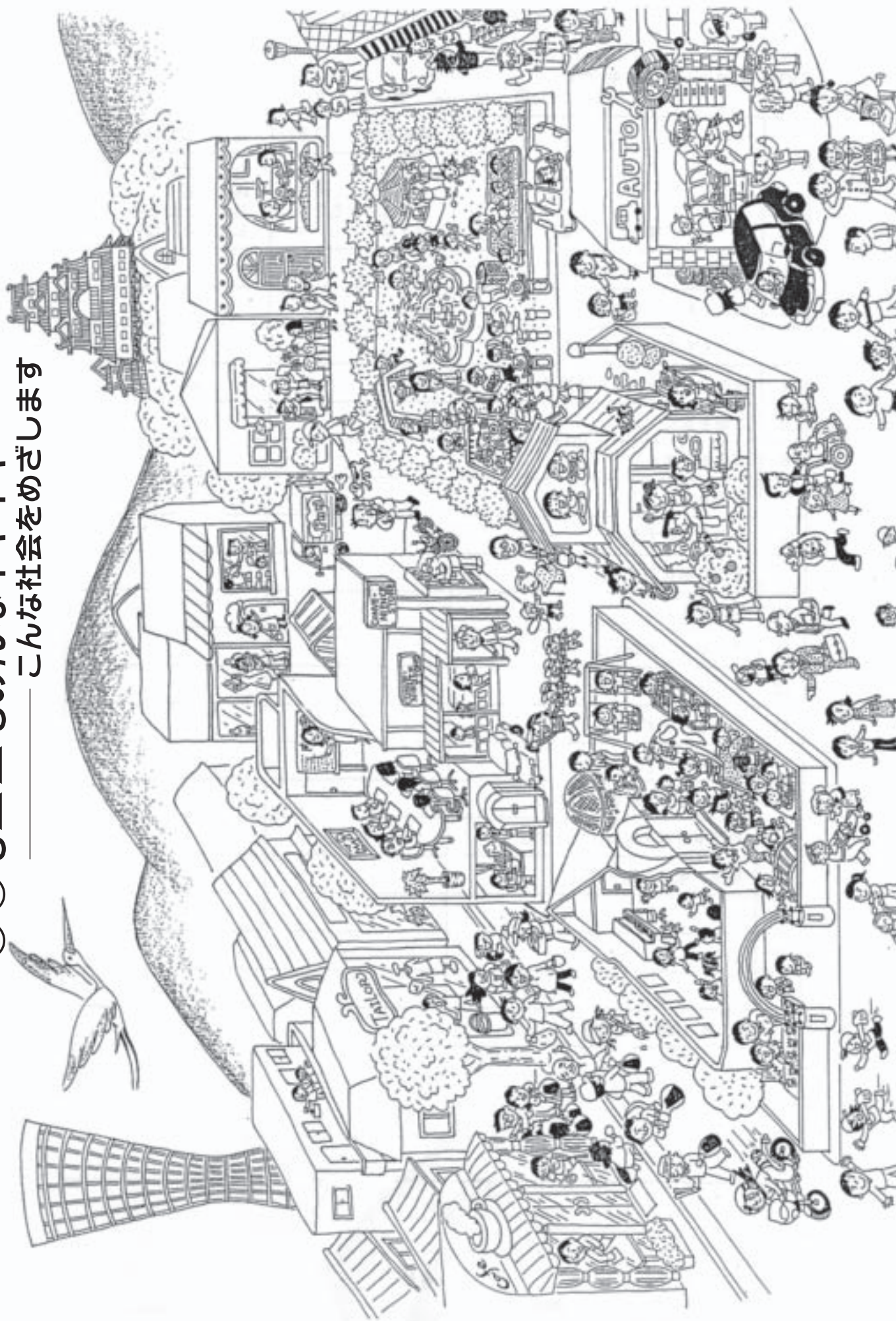
さらに、「男女共同参画社会基本法」「育児・介護休業法」「女性差別撤廃条約」の一部なども紹介する。



3 展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料の絵を見て、話し合う。</p>	
<p>この絵は、「〇〇も△△もみんなイキイキ」という題の絵です。 〇〇と△△に入れる言葉を考えましょう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんもお年寄りも ・子どもも大人も ・女の人も男の人も ・外国の人も日本の人も ・障害のある人もない人も 	<ul style="list-style-type: none"> ・本資料は「女性も男性も」であるが、性差別がなく対等に協力し合うことができれば、回りの人が楽しい生活を送ることにつながるので、左記の例は全て正解と言えることに気づかせる。
<p>この絵と自分の身の回りや、自分の今までの男女についての考えとを比べて、違いを見つけましょう。</p>	
<p>(1) 職業 保育士・車の修理士・管理職・トラックの運転士</p> <p>(2) 家庭・地域生活 料理・買い物・掃除・ゴミ出し・子どもの世話・介護・会議への参画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は、以前は「保母さん」と呼ばれていたように女性が多かったが、男性も増えてきたことを確認させる。 ・働く女性が増え、管理職も女性が少し増えてきた職場もあるが、まだ男女格差は大きいことを確認させる。 ・性別に関係なく、一人一人が生活面で自立できる技能の習得が大切であることに気づかせる。
<p>この絵(理想)の社会になるようにするために、私たちは今後どのようにしていったらよいでしょう。</p>	
<p>2 今後の課題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女だから、男だからという性別による固定的な役割分担意識にとらわれない考え方をしていく。 ・男女共に、家事や育児、介護もできる力を身につける。 ・自分も回りの人も大切に思える人になる。 <p>3 学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活自立度チェック」をさせ、家事能力向上への意欲をもたせる。 ・本時の感想や絵の中のどの人物になりたいかを発表させる。あてはまるものがない場合は、その考えを発表させる。

〇〇も△△もみんなイキイキ —— こんな社会をめざします



(人権教育指導資料(女性をめぐる問題) 大分県教育委員会参照)

生活自立度チェック

No.	家事	自分ができること	自分がしていること
		得意 ◎ できる ○ たぶんできる △ できない ×	毎日している ◎ 時々する ○ したことがある △ したことがない ×
1	洗濯機を使う		
2	洗濯物を干す		
3	洗濯物を取り入れる		
4	洗濯物をたたんで片づける		
5	ご飯を炊く		
6	買い物をする		
7	料理をする		
8	食器を洗う		
9	掃除機をかける		
10	床ぶきをする		
11	トイレ掃除をする		
12	ふろ掃除をする		
13	ゴミ出しをする		
14	ふとんを干す		
15	アイロンをかける		
16	針仕事（ボタンつけなど）をする		
17	電球を取り替える		
18			
19			
20			

☐ 今日、思ったことを書きましょう。

No.	テーマ等	人権教育の視点
(11)	男女共同参画社会をともに生きる ●教科等／社会科公民	人権の歴史と思想についての理解 人権の擁護とその活動についての学習 ●学年／中学校3年

1 教材

新しい社会 公民 「東京書籍」

2 ねらい

- (1) 女性が置かれている現状を知るとともに、女性に対してどのような差別があり、その解決に向けてどのような取組が行われているかを理解する。
- (2) 社会の対等な構成員として、男女が共に生きていく社会を実現するために自分たちに何ができるかを考え、進んでかかわっていかうとする。

3 指導にあたって

- (1) 本単元では、職場における現在の女性の立場について考察できる資料や男女共同参画に関する近代以降の法律の変遷を学ぶ資料をもとにして、男女共同参画社会の理想像について考えさせる。
- (2) 現在、どのような性差別があり、その解決に向けてどのような取組が行われているのかを理解させる。また、男女が互いに認め合い、ともに力を合わせて生きる社会をつくるためには、どうすればよいかを話し合う。

4 評価基準

- (1) 社会的事象への関心・意欲・態度
男女が平等にともに生きていける社会を実現するために、自分たちに何ができるか、話し合い、考えようとしている。
- (2) 社会的な思考・判断
「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」などを考える中で、社会的性別の視点でとらえようとする。
- (3) 資料活用の技能・表現
各種の資料を利用し、職場における現在の女性の立場を発表することができる。
- (4) 社会的事象についての知識・理解
戦後の男女平等にむけた法律の変遷の歴史についての知識を身につけ、広い視野から正しく法律の変遷過程を認識している。

5 展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 資料のカード①から⑥を「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえないちがい」に分ける。	・日常生活の中で、気がつかないうちに女性が差別されていることがないかを考えさせる。
戦後の男女平等に向けた取組の変遷を学習しよう。	
2 「日本国憲法」から「男女雇用機会均等法」の改正までの条文を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本国憲法」「労働基準法」「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」等の条文を読み、その要点を確認し、法整備から見た女性差別解消の歴史を理解させる。 ・「男女雇用機会均等法」の改正点を確認させる。
「女性と労働」に関するグラフや写真を見て、感じたことを発表しよう。	
3 思ったり、感じたりしたことを自由に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフから就職や給与、昇進などにおける女性差別があることに気づかせる。 ・職場などでは、セクシュアル・ハラスメントが問題になっていることも提起する。 ・写真を見ながら、男女が区別なくあらゆる職業につきつつある実態に気づかせる。
女性が働きやすい環境をつくるには、何が必要でしょう。	
4 日々の生活を見つめ直し、考えを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・家事や育児などの具体例をもとに、話し合いを深めるよう支援する。 ・男女が互いを認め合う中で、社会の一員として共に平等に生きることの大切さを考えさせる。
5 本時のまとめをする。	

資料

次の①から⑥までのカードにある男女のちがいは、

A:「あっていいちがい」

B:「あってはいけないちがい」

C:「どちらともいえないちがい」

のどれでしょう？

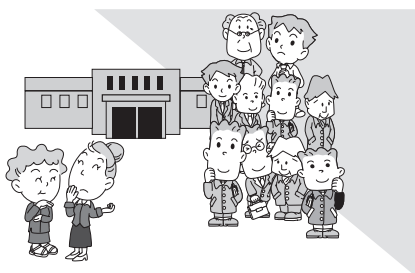
① 葉子さんは、家の洗濯をよく手伝うが、お兄さんはしない。



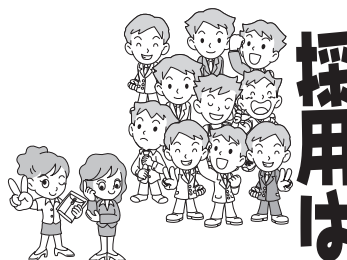
④ A中学校のマラソン大会では、男子は4km走るが、女子は2kmである。



② 日本の裁判官は、男性が多く、女性は少ない。



⑤ C会社では、男性を10名、女性を2名というように男女別に採用している。



③ 夏の季節のポスターには、水着の男性でなく女性がよく使われている。



⑥ みんなで例を出して考えよう。

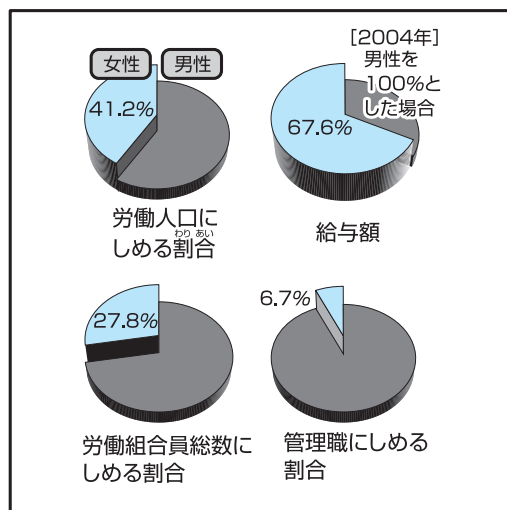
？
他には

問 題	A	B	C	理 由
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

- 日本国憲法
 - 第14条「法の下での平等」
 - 第24条「婚姻、家族生活における個人の尊厳と両性の本質的平等」
- 労働基準法
 - 第1条「労働条件の原則」
 - 第2条「労働条件の決定」
 - 第3条「均等待遇」
 - 第4条「男女同一賃金の原則」
- 男女雇用機会均等法
 - 第1条「目的」
 - 第2条「基本的理念」
 - 第3条「啓発活動」
 - 第5条「募集及び採用」
 - 第6条「配置、昇進及び教育訓練」
 - 第7条「福利厚生」
- 男女共同参画社会基本法
 - 前文
 - 第1条「目的」
 - 第2条「定義」
 - 第3条「男女の人権の尊重」
 - 第4条「社会における制度または慣行についての配慮」
 - 第5条「政策等の立案及び決定への共同参画」
 - 第6条「家庭生活における活動と他の活動の両立」



■女性と労働



資料:「女性労働白書」
平成16年(2004年)版ほか

改正のポイント

■男女雇用機会均等法の改正点

事 項	改正前	改正後
性別を理由とする差別の禁止	女性に対する差別的取扱いの禁止	男女双方に対する差別的取扱いの禁止
	募集・採用・配置・昇進・教育訓練・福利厚生・定年・解雇について禁止	募集・採用・配置(業務の配分及び権限の付与を含む)・昇進・降格・教育訓練・福利厚生・職種の変更・雇用形態の変更・退職の勧奨・定年・解雇・労働契約の更新
間接差別の禁止	規定なし	厚生労働省令で定める措置については合理的な理由がない限り禁止
妊娠・出産・産休取得等を理由とする不利益取扱いの禁止等	婚姻・妊娠・出産を退職理由とする定めを禁止	
	婚姻を理由とする解雇を禁止	
	妊娠・出産・産休取得を理由とする解雇を禁止	妊娠・出産・母性健康管理措置・母性保護措置・妊娠又は出産に起因する能率低下等を理由とする解雇その他不利益取扱いを禁止 妊娠中・産後1年以内の解雇は事業主の反証がない限り無効
セクシュアル・ハラスメントの防止	女性労働者を対象とする事業主の雇用管理上の配慮義務	男女労働者を対象とする事業主の解雇管理上の措置義務
	規定なし	調停などの紛争解決援助の対象にセクシュアル・ハラスメントを追加
	規定なし	是正指導に応じない場合の企業名公表制度の対象にセクシュアル・ハラスメントを追加
母性健康管理	規定なし	苦情の自主的解決、調停などの紛争解決援助の対象に母性健康管理措置を追加
	規定なし	是正指導に応じない場合の企業名公表制度の対象に母性健康管理措置を追加
ポジティブ・アクションに対する国の援助		①労働者の配置等の状況の分析 ②分析に基づく計画の作成 ③計画で定める措置の実施 ④実施体制の整備を行う事業主に対する相談その他の援助 ①労働者の配置等の状況の分析 ②分析に基づく計画の作成 ③計画で定める措置の実施 ④実施体制の整備 ⑤取組状況の外部への開示を行う事業主に対する相談その他の援助
実効性の確保	時効の中断	規定なし
	訴訟手続きの中止	規定なし
	過料	規定なし

資料:厚生労働省雇用均等・児童家庭局作成より

男女が共同してつくる社会

①看護師 病院での看護は、とても大切な仕事です。今までは、女性が活躍していましたが、男性でめざす人も増えています。



②客室乗務員 飛行機の中で、乗客にサービスをします。



③新幹線の運転士 新幹線ばかりでなく、貨物列車、路線バスやトラックの運転手などにも、女性が進出しています。



④飛行機の操縦士 旅客機で女性の操縦士が採用されて、空に飛び立つ夢が広がりました。

⑤保育士 保育園などで、幼児の世話をします。



⑥消防署の救急救命士 男女の区別なく、個人としての能力や適性に応じて、職業を選べるようになってきました。

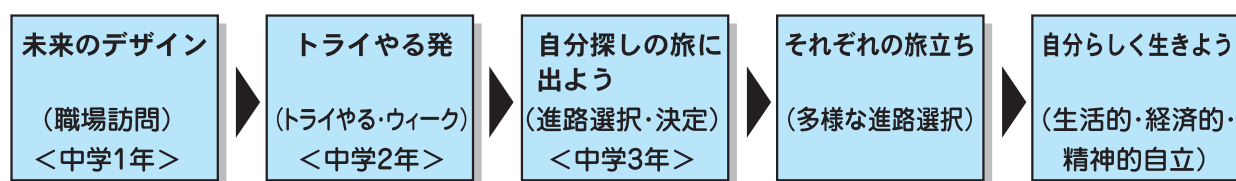
資料:東京書籍「新しい社会 公民」、平成17年度版

No.	テーマ等	人権教育の視点
(12)	男女共同参画社会に向けて	社会参加の促進
	●教科等／全領域	●学年／中学校1年～3年

1 中学校3年間の流れ

多様な進路選択を可能にする職業観・勤労観を育成し、性別にとらわれない進路選択ができるような学習活動および実践例

～「トライやる・ウィーク」を通して、自分を見つめ
性別にとらわれない進路選択ができる能力の育成をめざして～



2 各領域における目標

人権教育を基盤に、男女共同参画社会の実現をめざす教育をすべての教育活動に位置づけて展開するために

道徳の時間

- 人間としてよりよく生きるための道徳性を育成する。
- 体験的な活動を通し、自分の地域に対する関心を深め、地域社会の一員としての自覚を高める。
- 自他を肯定的にとらえ、それぞれの個性を大切にし、共に高め合おうとする意識を育てる。
- 地域や保護者との連携を密にし、道徳的実践力を育成する。

特別活動の時間

- 集団活動を通して、自尊感情をはぐくみ、また望ましい人間関係を築くことで、共に成長しようとする意欲や態度を育てる。
- さまざまな集団活動を通して、多様なものの見方や考え方を身につける。
- 集団活動の中で、性別による役割分担意識に気づく。

私らしく
あなたらしく

- 体験的な活動等を通して、社会の変化に対応できる知識や問題解決能力を身につける。
- 地域の人やさまざまな人との関わりから違いを認め、自分のよさを伸ばそうとする意欲を高める。
- 自分の夢の実現に向けて計画的・継続的に課題に取り組み、課題を解決する力を育てる。

総合的な学習の時間

- 社会生活に必要な学力の基礎・基本の定着を図る。
- 自ら課題に取り組み、その課題を解決し、更なる向上をめざそうとする意欲や態度を育てる。
- 学習方法の多様性に気づき、それを自分に応じて活用できる力を育てる。
- 自己表現力を身につけるとともに、コミュニケーション能力を高める。

教科の時間



(1) 未来のデザイン(職場訪問)

中学1年

1 ねらい

- (1) 3年後の進路選択(将来の夢)に展望をもつとともに、性別にとらわれず自分らしい進路選択が大切であることに気づく。
- (2) 将来の自分の働く姿を考えることで、充実した中学校生活を送るために必要なことは何かを考える。
- (3) 働く意義について考え、今までの職業観・勤労観を振り返る。

2 学習計画

月	資料名	学習活動	ねらい	視点			内容・目標・項目	時数	領域	関 連
				1	2	3				
5	職場訪問 1	「自分のなりたいこと」について考え、発表し合う	・夢を実現させるためには、努力が必要であることに気づき、学ぶことが働くこと(生活すること)につながることを理解する。 ・他者の意見と自分の意見を比較し、さらに自分の考えを深める。	○			学びと出会いの促進	1	特活	・心のノート(P19~21)
	訪問先の決定	訪問先を決定し課題を設定する	・トライやる・ウィークの事業所を知ることで、さまざまな職種があることに気づく。 ・自分が学びたいことを考える。また、さまざまな学習方法があるが、自分に適した学び方を身につける。 ・性別に関係なく自分に合った仕事を選ぶことの大切さに気づく。 ・具体的に校区内の事業所を調べることを通して、自分の住む地域のよさに気づく。		○		自尊感情の形成	1	特活	・社会科 ・ゆめいっぱい(姫路市副読本)
	「母の仕事」	資料「母の仕事」を学習する(友だち)	・特定の職業に対する偏見や差別に気づく。 ・生活を支えるために献身的に働く母の姿を通して、自分の仕事に対する誇りについて考える。 ・正しい職業観をもつ。		○		自分と社会についての認識 差別と人権問題についての学習	1	道徳	・家庭科(住居)
	職業観・勤労観	「働く」ということを考える	・勤労の尊さや意味、奉仕の意義について理解を深め、公共の福祉についても考える。		○		個性・能力の伸長	1	特活	・心のノート(P98~101)
	訪問準備	事業所訪問のグループに分かれ、意見交換をし、質問をまとめる	・さまざまな意見を聞き、各自の考えを生かすことがよりよい集団を形成することに気づく。 ・訪問時に必要な礼儀について理解する。			○	基礎・基本の定着 人権擁護とその活動についての学習	1	総合	・国語科 ・心のノート(P38~41)
6	職場訪問 2	グループごとに事業所を訪問する	・地域の人々の生き方や働く姿を通して、勤労の意義を考える。 ・トライやる・ウィークを見学することで、来年への意欲を高め、地域への関心を深める。 ・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動を身につける。		○	○	社会参加の促進	2	総合	
	新聞づくり	グループごとに訪問してわかったことについて新聞づくりをする	・相手の立場や意見を尊重しつつ、自分の意見を伝え、お互いに協力することの大切さを理解し、達成感を味わう。 ・性別に関係なく、みんなで協力し、粘り強く取り組むことの大切さを理解する。		○	○	基礎・基本の定着	2	総合	・国語科 ・心のノート(P38~41)
	まとめ	事業所に礼状を書く	・自分の考えを正しく伝えることの大切さを知り、T.P.O.に応じた表現力を身につける。			○	基礎・基本の定着	1	国語	
		新聞を発表する	・協力し合い適切に表現する。また相手の気持ちを考え、最後まで聞こうとする。 ・事業所や地域の人々に参加を呼びかけ、成果を公表する。		○	○	自分と社会についての認識	2	総合	・技術科 ・心のノート(P98~101)
	職場訪問 3	自分の興味・関心のある職業を調べる	・必要な資料や情報を収集し、自分に合わせて活用する能力を身につける。 ・固定観念にとらわれず、自分に適した仕事や自分が興味・関心のある仕事を選ぶことの大切さに気づく。			○	個性・能力の伸長	1	特活	・心のノート(P98~101)

※ 内容・目標・項目は、「人権教育指導プログラム」【県教育委員会作成 平成15年(2003年)】による

(2) トライやる発(トライやる・ウィーク)

中学2年

1 ねらい

- (1) 「トライやる・ウィーク」を出発点にして、働くことの意義について考える。
- (2) 社会に対する視野を広げ、地域や地域の人々の様子について理解する。
- (3) 勤労の尊さや意義について考えるとともに、職業に男女の区別がないことを理解する。

2 学習計画

月	資料名	学習活動	ねらい	視点			内容・目標・項目	時数	領域	関 連
				1	2	3				
5	「女らしさ、男らしさ」	資料「女らしさ男らしさ」を学習する(友だち)	・身体的性差について考え、身体的な違いを理解する。 ・社会的性別(ジェンダー)にとらわれず、個としてお互いを認め尊重する。	○			生命の尊厳についての学習	1	道徳	保健科 ・心のノート(P32,33)
	「ダンブカーの運転席で」	資料「ダンブカーの運転席で」を学習する(友だち)	・性別による職業の固定的なとらえ方が男女の可能性を狭めていることに気づき、働くことそのものを大切にしていこうとする。	○			差別と人権問題についての学習	1	道徳	・心のノート(P98,99)
6	事前指導	事業所選定と決定	・自分の興味・関心のある職業について考える。 ・地域の職場を知り、さまざまな人々の支えでトライやる・ウィークが実施できていることに気づく。	○			社会参加の促進	1	総合	
		トライやる・ウィークの準備をする	・社会のルールやマナーについて考え、T.P.O.に応じた言動ができる。	○	○		市民意識の醸成	1	特活	・心のノート(P98,99)
	トライやる発 1	トライやる・ウィーク	・体験活動を通して、社会に対する視野を広げ、自分の住む地域や地域活動を支える人々の様子を理解する。 ・家庭や職場において、男女の対等な関係に気づくとともに、男女が共に支え合う家庭や社会を構築しようとする。 ・体験活動を通して、親への感謝の気持ちをもつ。 ・家族の一員として、積極的に役割を果たそうとする。	○	○		自尊感情の育成 自分と社会についての認識 差別と人権問題についての学習 個性・能力の伸長	2	総合	
	まとめ	事業所ごとに活動のまとめをする	・互いを大切にした表現方法を見つける。 ・男女の区別なくさまざまな意見を聞き、それぞれの考えを生かすことがよりよい成果を生むことに気づくとともに、共に高め合おうとする意欲をもつ。	○	○		学びと出会いの促進 自尊感情の育成	2	総合	・特活 ・心のノート(P54,55)
		成果を発表する	・他の体験活動を通して、自分との違いに気づく。また、学習の成果を共有することで更に向上しようとする意欲をもつ。 ・相手の立場や気持ちを考えながら、積極的に聞こうとする。 ※各事業所、地域、ボランティアにも参加を呼びかける。		○		基礎・基本の定着	1	総合	
		事業所に礼状を書く	・目的に合わせて自分の意見を表現する技能を身につける。		○		基礎・基本の定着	1	国語	
	トライやる発 2	体験を振り返り、自分を見つめる	・学んだことを生活に生かそうとする意欲をもつ。 ・体験を通して、自分の職業観・勤労観を振り返り、働くことの意義について考える。 ・性別に関係なく、それぞれ個性や能力に違いがあり、個性を尊重することの大切さに気づく。 ・社会科と連携し、女性差別の解消に立ち上がった人々の生き方について共感する。	○			自分と社会についての認識	1	特活	・社会科 ・心のノート(P26,27)
	「父の汗」	資料「父の汗」を学習する(きらめき)	・将来、自分の就きたい仕事に対して具体的なイメージをもつことで進路に見通しをもち、切り拓こうとする意欲を高めるとともに職業や働いている人を尊重しようとする態度を身につける。	○			個性・能力の伸長	1	道徳	・心のノート(P98,99)

※ 内容・目標・項目は、「人権教育指導プログラム」【県教育委員会作成 平成15年(2003年)】による

中学校

テーマ等	人権教育の視点
トライやる発2 ―体験を振り返り、自分を見つめる―	社会参加の促進
●教科等／特別活動	●学年／中学校2年

1 ねらい

- (1) 学んだことを生活に生かそうとする意欲をもつ。
- (2) さまざまな体験を通じて、自分の職業観・勤労観を振り返り、働くことの意義について考える。
- (3) 性別に関係なく、それぞれの個性や能力に違いがあり、自分の個性を尊重することの大切さに気づく。
- (4) 社会科と連携し、女性差別の解消に立ち上がった人々の生き方に共感する。

2 指導にあたって

- (1) 本題材は、トライやる・ウィークの体験を通して、より具体的に働くことを身近に考えさせることができる資料である。
- (2) 家族の一員として、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てるとともに、自己の夢の実現に向けて、最後まで努力することの大切さに気づかせる。

3 展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 「トライやる・ウィーク」の体験を発表する。 (1) 班内で発表する。 (2) 班の代表が発表する。	・各事業所での活動が違うので、お互いの体験を共有させる。 ・他の人の意見を聞くことの大切さに気づかせる。
2 働くことについて考える。 (1) 「トライやる・ウィーク」の体験前 (2) 「トライやる・ウィーク」の体験後	・働くことの意義は、経済基盤の確保も重要な要素であるが、自分の適性や生き甲斐も大切であることに気づかせる。 ・社会貢献という視点からも考えを広げさせる。
3 家族について考える。	・事業所の人の働く姿や自分の体験を通して、日々働いている家族に感謝の気持ちをもたせる。 ・家庭内の仕事に進んで取り組もうとする意欲や態度を育てる。
4 自分を見つめる。	・「トライやる・ウィーク」の体験で出会った人々から学んだことをもとに、自分の夢について考えさせる。 ・自分の夢をもち、それを実現させるための努力には、性別は関係ないことに気づかせる。 ・自分にあった進路選択が大切であることを理解させる。

(3) 自分探しの旅に出よう(進路決定)

中学3年

1 ねらい

- (1) 具体的な進路決定に際し、自らの将来を見つめ、夢の実現に向けて積極的に取り組もうとする。
- (2) 性別に関係なく、多様な進路選択が可能であることに気づく。
- (3) 労働の意義を考え、職業に男女の区別がないことを理解し、自らも社会の一員であるという自覚をもつ。
- (4) 男女が共に支え合い、互いを尊重することにより、よりよい家庭を築くことができることを理解する。

2 学習計画

月	資料名	学習活動	ねらい	視点			内容・目標・項目	時数	領域	関 連
				1	2	3				
6	自分探しの旅 1	資料「私、発見」を学習する(きらめき)	・自分という人間を肯定的にとらえ、自分のよさを知ることによって自尊心をはぐむとともに他者の個性や能力の多様性についても知り、相互理解することで、望ましい人間関係をつくっていかうとする意欲をもつ。	○			自尊感情の形成 市民意識の醸成	1	道徳	・特活 ・心のノート (P5)
	「私の仕事」	仕事について考える「私の仕事」	・家庭内にもさまざまな仕事があり、それらは性別に関係なく誰もができることであり、できることをしようとする。 ・職業の適性は性別ではなく、個性や能力に関係することに気づく。 ・多様な職種があり、それぞれが社会を支えていることを理解し、自分に適した仕事について考える。		○		差別と人権問題についての学習	1	道徳	・心のノート (P98, 99)
	性差別を見抜こう	女性問題について考える	・女性差別を見抜き、問題解決の視点を見つけるとともに、一人一人が大切にされる社会を実現していかうとする。			○	人権の歴史と思想についての学習	1	道徳	
	共に生きる	性別による固定的な役割分担意識について考える	・性別による固定的な役割分担意識が男女の生き方や労働形態を不自由にしていることに気づき、よりよい夫婦のあり方を考える。 ・外国と比較することで男女の生き方についての視野を広げる。	○			人権の擁護とその活動についての学習	2	総合	・社会科 ・ゆめいっぱい グラフ
	互いを理解しよう	異性理解について考える	・異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重しようとする。	○	○		自尊感情の形成 人間関係の活性化	2	道徳	・社会・保健・ 家庭科 ・心のノート
	自分探しの旅 2	進路を考える	・真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して、自らその人生を切り拓いていかうとする。			○	学びと出会いの促進 社会参加の促進	1	総合	特活 ・心のノート (P28, 29) ・教育相談

※ 内容・目標・項目は、「人権教育指導プログラム」【県教育委員会作成 平成15年(2003年)】による



テーマ等	人権教育の視点
自分さがしの旅 2 進路を考える	学びと出会いの促進 社会参加の促進
●教科等／特別活動	●学年／中学校3年

1 ねらい

- (1) これまでの学習や活動を振り返り、自ら進路を選択しようとする。
- (2) 性別による固定的な役割分担意識や職業に対する固定観念にとらわれず、自分にあった進路を考える。

2 指導にあたって

- (1) 夢の実現には、粘り強い努力や周囲の人の理解や支援が必要であることを考えさせることに適した資料である。
- (2) 自らの将来を見つめ、性別にとらわれず自分にあった進路選択が大切であることに気づかせる。

3 展開例

学 習 活 動	指導上の留意点
1 自分を見つめる。 (1) 自分を振り返る。 ・性格(長所・短所) ・得意分野、興味・関心のあること ・仕事を選ぶときに大切にすること ・将来の仕事 (2) 今の自分を見つめる。 ・進学なら… ・就職なら… ・未定なら…	・自分を肯定的にとらえるように考えさせる。 ・自分の能力を見つめさせることで、自分の可能性に気づかせる。 ・進路選択が、将来の職業選択にも関係することを理解させる。 ・自己の適性を知り、それを伸ばすためには、粘り強い努力が大切であることに気づかせる。 ・自分を見つめることで、自分を大切にしようとする意欲をもたせる。 ・進路に対する不安や悩みを共有できる受容的な雰囲気をつくる。
2 今、すべき事について考える。 (1) 学習面 (2) 生活面	・性別に関係なく、自分にあった進路選択の重要性に気づかせる。 ・自分の短所や努力すべき点に気づかせ、それを解決しようとする意欲が必要であることを理解させる。
3 これからの自分について考える。	・家族や周囲の人々の意見を聞き、自分とは異なった考えを知ることの大切さに気づかせる。 ・それぞれの考えを参考にし、自分らしい進路選択に必要なことを考えさせる。 ・自分を支えてくれている家族に感謝の気持ちを持たせる。 ・男女に関係なく、進路を選択することが自分の幸せにつながり、男女共同参画社会の実現への一歩となることを理解させる。

「進路を考えよう」

4 学習資料

(1) 自分を見つめよう。

ア 性格（長所・短所）

イ 得意分野、興味・関心のあること

ウ 仕事を選ぶときに大切にすることは？ その理由は？

エ 将来の仕事

(2) 今の自分を見つめよう。

ア 進学なら

 高 校 高 校

イ 就職なら

 関 係 関 係

ウ 未定なら、今後の予定は？

(3) これからの自分について考えよう。

希望や夢を実現させるために、今あなたはどうしたらいいですか、何ができますか。

(4) あなたの夢の実現に向けて、家族の人からひとこと書いてもらおう。